

彦さんの乾杯で新年会を始めました。心地よい疲れで紹興酒がはかどり昨年の山行や今年の山行予定で大いに盛り上がりました。昨年の計画では特に新井晴天さんのご努力で計画から実施までスムーズに実施出来た事をここで感謝申し上げます。本当にご苦労様でした。PM2:20に新井様の「江戸」の音頭で景気良く元気に締めて頂き無事に会をお開きにしました。今後も歩く会、桐生倶楽部が良い1年でありますようにご祈念申し上げます
(腰塚富夫 記)



美術部会

大川美術館へ

至る2月9日(木)美術部の行事で生誕百十年、1912年に生まれ36才の若さで他界した松本竣介のデッサン画を鑑賞する。参加者は6名。ようやく沈静化がやや感じられるコロナ禍に美術部としての活動を再開し竣介の世界観を味わった。ただ、平日とは言え10時半から正午までに大川美術館内での来館者が数人しか確認出来なかったのが残念であった。

私の家の庭先には既に春の訪れを思わせる露のとうが顔を出し始めているが、まだまだ寒気の最中に穏やかな日差しが注ぐ水道山の方々は目を覚ます様子は見られなかった。

さて、絵画鑑賞に話を戻すと、竣介が西洋画家に影響を受けた中でも私的にはモディリアーニが好きだ。特に今回の展示では裸婦に興味を持った。

また、桐生の画家達も紹介されていたが、最近話題の高い山口晃の作品が数点展示されていて、特に桐生市街地の「ショッピングモール」は、新庁舎落成の折にロビー正面でも展示されたいと思いましたが。他にもオノサトトシノブや宮地佑治などの作品等、地元のアーティスト作品も数多く展示され、久しぶりに心静まるひと時を過ごせた気がした。

社員の皆様にも是非機会を取られ、大川美術館に足を運んで見てはいかがでしょうか。

絵画等の鑑賞はその作品を通し自分自身を見つめ返し、心の洗濯ができる極めて価値あるひと時であると思うのです。この竣介の「デッサン50」は3月12日の日曜日までですが竣介に拘ることなく、生活のリズムをこうした絵画鑑賞に振り分けてはいかがでしょうか。

(関本金三郎 記)

